

E-3 中高年夫婦のダイナミックとその構造(第2報) 葛藤の側面
日本大短大 O二階堂ひさ子 浮原婦紗 田村喜代 五谷昭

目的 平均30有余年に渡る長い夫婦生活にあり、全くトラブルのなきない夫婦関係は考えられない。夫婦にとってこうした葛藤などのように処理されているかが、結婚生活の維持・発展に極めて重要な課題であることはいうまでもない。

本研究では、かなりの結婚生活を経験している中高年夫婦を中心として、その葛藤状況の実態と、夫婦関係維持にとって重要な要因は何かの解明を試みた。

方法 調査方法は、第1報と同じであるが、葛藤状況は夫婦の間に起り得るトラブル18項目をとりあげ、各々に解答を求めた。

結果 (1) 夫婦間に全く葛藤がないとしたものは、極めて少なく、ほとんどの夫婦が何かの葛藤を経験している。

(2) 葛藤の生ずる領域ごとにみると、経済的な問題がもっとも多く、これに愛情に関するもの、子どもとの問題に関するものが続いている。

(3) これらを個別にみると、子どもへのつけ、人生観の相違、子どもの教育、夫の趣味・娯楽、日常の家事などが葛藤の多いものとなっている。

(4) 夫婦の結びつきを強め、結婚生活を維持するため重要と考えられているものとして夫婦の信頼関係をあげるものが圧倒的に多く、夫婦の愛情問題、夫の収入が続いている。

その他、家族形態、妻の学歴、妻の就業状況、家事分担の満足度、結婚の満足度、くらしむきとのかわりなどとの葛藤の側面の分析を試みた。